

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	舞台芸術鑑賞事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	11	3	7,850
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	27 文化芸術の振興											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						
		事業期間	2	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	飯田市民	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			107844	107000			
	鑑賞者数	鑑賞者数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
			4000				
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	一流の舞台芸術を鑑賞する機会を得て、刺激を受ける。鑑賞者数を増加させる。	人口に対する鑑賞者率	18目標	4	最終目標	5	
			18実績	4	19目標	4	↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度	
		客席数に対する鑑賞者の割合	18目標	80	最終目標	90	
18実績			80	19目標	80	↑	
23目標				23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	クラシック、ポップス、演劇、声楽など、質の高い舞台芸術に市民が触れることを目的に開催している。その企画実施に際しては、自主事業専門委員会をはじめ、実行委員として多くの市民が企画・運営に参画することにより、事業を成功させている。ひいては市民が自主的に鑑賞事業を企画運営を行うことにもつながる。	18年度の実績	市民のニーズを把握し、様々なジャンルの舞台芸術を招聘する。また、多くの市民が企画実施に参画できるよう実行委員を広く募集し、確実なマネージメントで各事業を成功させていく。(計画総事業費25,300千円) 18年度より飯田勤労青少年ホームで開催していたヤングミュージックフェスティバル事業負担金を統合し、若者向け事業の継続をおこなう。 ポップス...アクア・タイムズ(メンバー体調不良により来年度に延期)、オーケストラ...日本フィルハーモニー交響楽団、打楽器...マリンバ・ポニーズ、親子のためのコンサート、コンテンポラリーダンス...白井剛+アルディッティ弦楽四重奏団	実行委員会開催回数 実行委員参加人数	17回 187名 (進行中)
		19年度計画	市民参画の一環として実行委員会を設け、市民のニーズに応えられるよう様々なジャンルの舞台芸術鑑賞事業を実施する。 [ジャンル] ・オーケストラ...群馬交響楽団 ・ヤングミュージック(ポップス)...アクアタイムズ(18年度繰越事業) 出演者未定 ・ポップス...南こうせつコンサート ・小さい子どものための事業...年4回実施		20回 80名

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	7,850	7,850
	事業費計(A)	7,850	7,850
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,500	19年度
	臨時職員等所要時間	500	
	人件費計(B)	5,902	0
	トータルコストA+B	13,752	7,850

特定財源内訳や補足事項
事業費の減額は計画的な事業進行に支障をきたす。予算執行にあたっては、チケット収入の増額、ならびに支出額を出来る限り減額することに務め、5%相当分については上乗せ戻入する努力を市民による実行委員とともに行なうので、予算額は現行どおりとされたい。

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	文化活動を主体的に担う	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(減らす)。	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
平成2年度、それまで教育委員会でおこなっていた主催事業を拡充強化して欲しいという市民要望に応え、本館が貸館から事業館に変わったことにあわせ、自主事業をおこなうこととなった。	市民の要望が多岐にわたるため、自主事業の企画を行う専門委員会を様々なジャンルの舞台芸術に関わる市民で構成している。また催し物のコストが値上がりしているため、以前より事業数が減少している。平成13年に制定された文化芸術振興基本法でも文化芸術の社会的な役割が明文化された。	安定した入場者数が確保され、各事業で集計したアンケート結果でも、ほぼ全員が「大変よかった」と好評である。また、ヤングミュージック事業に関しては、若者が集う機会をより多く開催されたいと議会でも要望が提出されている。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	今まで要望の多かった未就学児等とその保護者のためのコンサートを、地元の演奏家の協力により2回実施することができた。今後も拡充を図る。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	市民と協議し、今後もバランスよく様々な舞台芸術を招聘していく必要がある。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	